

城郭における博物館活用と展示の工夫 —中世・近世の城郭を中心に—

Museum Utilization and Exhibition Ideas at Japanese Castles
-Focusing on Medieval and Modern Castles -

人文科学系／博物館学／論文

人文社会芸術総合研究科

福嶋 純之

Atsushi Fukushima

◎研究目的

日本全国にある城郭は観光名所であると同時に、地域の歴史を語るうえで重要な資料でもある。公園整備や博物館設置など、今後城郭における様々な文化財活用が促進されると考える。しかし城郭活用の先行研究において、博物館活用や展示方法に関する研究がほとんどないことが分かった。

そこで私は、中世・近世の城郭を中心に、まだ進んでいない城郭における博物館活用について論じていく。城郭を活用している又は城郭に関する展示を行っている博物館を「城郭関連博物館」と定義し、全国の城郭関連博物館の分類を行い、それぞれの特徴や展示方法を博物館学の点から分析を実施した。そして本研究が、今後の城郭活用や城郭関連博物館の研究についての基礎資料になることを目指す。

◎城郭における博物館活用の始まり

城郭における博物館活用の始まりは昭和4年（1929）に上田城西櫓を利用した「徴古館」であり、その背景には昭和天皇の即位を祝う大典記念事業があったと考える。その後、城郭関連博物館の開館が進んでいき、特に昭和39年（1964）から昭和51年（1976）の「天守閣復興ブーム」や昭和52年（1977）から平成3年（1991）の「公立博物館建設ラッシュ」では、城郭の博物館活用がより促進されたことが分かる。

◎城郭関連博物館の分類

筆者は城郭関連博物館を次のように分類が可能であると考えた。それぞれのタイプが持つ特徴を活かして、文化財活用や観光振興、地域活性化の拠点となっている。全国の全271館を以下のように分類した。

A. 現存する城郭建築を活用した博物館施設(26館)

城郭建築そのものが重要な一次資料であるため、文化財保護を優先した展示の工夫がされている。BやCを併設することで展示の充実化を図る場合もある。

B. 復元した城郭建築を活用した博物館施設(56館)

木造復元と鉄筋コンクリート造の外観復元の2種類ある。Aと比べ展示の自由度は高く、映像や模型を用いた大型展示が用いられている。

C. 新設された博物館施設(189館)

館種も総合博物館から歴史博物館や郷土博物館など様々である。展示内容も城郭に特化したものから地域全体の郷土史まで、A、Bよりもさらに幅広い内容になっている。



図1、松本城2階「松本城鉄砲蔵」展示風景

◎城郭における展示

城郭関連博物館での展示テーマは次のように分類でき、それぞれのテーマが互いに重なり合いながら展示内容を深化させていると考えられる。

- ひと: 城主・藩主や城郭にゆかりのある人物に焦点を当てる。
- まち: 城下町や城郭がある地域の歴史や文化に焦点を当てる。
- つくり: 城郭の構造や装飾に焦点を当てる。



図2、金沢城 石垣の復元展示

(左から自然石積み、粗加工石積み、切石積み)

◎城郭における博物館連携の試み

「風土記の丘」「歴史文化基本構想」「まるごと博物館構想」といった地域活性化や観光振興の取り組みが実施されており、城郭関連博物館はこれらの中心的施設となっている。しかし地域だけで完結するのではなく、地域の垣根を超えた城郭同士または城郭関連博物館同士の連携も可能ではないかと考えられる。築城当時の因縁やゆかりのある人物、文化財としての城郭の現状など、城郭関連博物館はこれらの繋がりを紹介しながら、地域に留まらない新しい学びを提供してくれる場としてさらなる展示の工夫や博物館連携に貢献すると考えられる。

◎おわりに

全国各地で様々な文化財活用が推進されているなか、城郭関連博物館はそれらに関連した事業の一助となるであろうと推察する。本研究の内容は、今後の城郭活用や城郭での博物館活用の研究における基礎的資料として、参考になると考えている。